今村昌平生誕100年祭
ーパルムドールのあるまち・新百合ヶ丘ー

# 日本人でただ一人、カンヌ国際映画祭<パルムドール>で最高賞を2度受賞した監督



【今村昌平プロフィール】

●1926年東京生まれ。黒澤明『醉いどれ天使』に感動して映画界を志す。51年松竹に入社して小津安二郎『東京物語』などの助監督を務める。54年日活に移り川島雄三『幕末太陽傳』などの脚本を担当して頭角をあらわす。

●58年『盗まれた欲情』で監督デビュー。以後、1960年代を通じて日活製作『豚と軍艦』『にっぽん昆虫記』『赤い殺意』、ATG製作『人間蒸発』など数々の傑作・問題作を発表し、日本映画の新しい波の中心的存在となる。66年今村プロ設立。『神々の深き欲望』で各賞を総なめにする。

●75年、横浜放送専門学院(85年日本映画学校/2011年日本映画大学に改称・改組して現在に至る)を設立して学院長に就任。

●79年『復讐するは我にあり』を発表して高い評価を得、その後、『楢山節考』と『うなぎ』でカンヌ国際映画祭パルムドールを受賞。二度の受賞は世界で10人、日本人では今村ただ一人である。最後の長編監督作は『赤い橋の下のぬるい水』。国際オムニバス作品『11'09''01/セプテンバー11』の中の短編「おとなしい日本人」が遺作となった。2006年逝去、享年79。葬儀では今村を敬愛するマーティン・スコセッシ監督が弔文を寄せた。




●日本映画大学
今村昌平が礎を築いた学校から、三池崇史、本広克行、李相日(以上、映画監督)、野木亜希子(脚本家)、ウッチャンナンチャン、出川哲朗、バカリズム(以上、タレント)など、今の日本のエンターテイメント界を支える錚々たる人材を輩出している。



●カンヌ国際映画祭・パルムドールトロフィー
左:『楢山節考』　右:『うなぎ』
2対のトロフィーは、川崎市アートセンターに常設展示されています。

## 今村昌平生誕100年祭　特別展示 入場無料

今村監督の偉業やその人柄に触れる貴重な品々の展示

・国内外の様々な映画賞の受賞トロフィーや盾
・映画の制作ノート、台本
・海外版含む上映作品のオリジナルポスター
・関係者などからのメッセージ　など
※展示内容は変更になる場合があります



プレ展示
[日時] 10月30日(金)～11月20日(金) ※11月1日(日)を除く ※パネル展示のみ
9:00～21:00
[会場] 川崎市役所本庁舎1階ロビー

本展示
[日時] 11月24日(火)～28日(土)
9:00～19:30 ※最終日は18:00まで
[会場] 川崎市アートセンター3階

主催:今村昌平生誕100年祭実行委員会　共催:「映像のまち・かわさき」推進フォーラム(プレ展示のみ)　後援:川崎市　特別協力:日本映画大学　協力:川崎市アートセンター

## 映画『風船』特別上映会 入場無料

[日時] 12月6日(日)　[会場] 新百合トウェンティワンホール


©日活

今村監督の恩師、川島雄三監督との共同脚本作品。
衣装デザインは同じく今年生誕100年の森英恵

1956年、日活。
出演:森雅之、三橋達也、北原三枝 ほか
監督:川島雄三
助監督:今村昌平
脚本:川島雄三・今村昌平
衣装デザイン:森英恵

「カフェ・グランデ　あさお 2026」主催:NPO法人しんゆり・芸術のまちづくり、川崎市麻生区
※詳細はしんゆり・芸術のまち公式サイト　カフェ・グランデ　あさお(10月上旬より順次掲載)

## TOPICS

今村作品の特別上映会

「いま、今村昌平を観る」
主催:日本映画大学

川崎市アートセンターにて開催中!

詳しくは